

文書削減は学校現場の共通の願いだった！

- ・これまで学校現場では、行政等から学校への文書事務が多く、大きな負担になっていた。
- ・特に、イベントや募集・案内チラシ、調査やアンケート等が、行政のみならず様々な企業や団体・組織から多数届いていた。

収受・回覧の負担

仕分けや配付の負担

◇県内の高等学校の例◇

ある年度の文書収受数
2400件ほど
そのうち県教委はおよそ半分
1150件ほど
残りの半分は、高体連、高
文連、他団体、県他部局から
のもの



◇県内の小学校の例◇

ある年度の文書収受数
1590件ほど
そのうち県教委はおよそ半分
840件ほど
残りの半分は、市町村教委、
他団体、県他部局からのもの

知事より

- ・学校現場の負担になっている文書業務の改善の要請
- ・県の責任において学校現場への文書の「断捨離」を大胆に行う

「学校現場への文書半減プロジェクト」がスタート



山梨県教育委員会から市町村教委や県立学校に対する文書による依頼を抜本的に削減し、県教委から学校現場への文書事務の半減を目指す

※ 実施方法等については必要に応じて適宜見直す

① 次の方針に基づき、すべての送付文書について、スクリーニング（精査）を実施

すべての文書を精査

【共有の必要性が低いもの】 【教育委員会が承知すればよいもの】

校長会等で周知可能なものは、市町村教委で留め置き、学校へ送付しないことを明記

送付せず

【内容に応じて学校がデータを共有・活用できればよいもの】

⇒グループウェアなど、次の場所に募集・案内チラシ等のデータを保管

県立学校⇒Microsoft Teamsを活用

小中学校⇒全教職員がアクセス可能なグループウェア（キャビネット）を利用

送付しないが
データ提供

【学校まで共有・対応の必要性が高いもの】

鑑文をつけて文書送付。本文にエッセンスを記載して、学校での文書処理を容易に

送付する

② 参加・作品募集チラシ等について、学校への配布を原則とり止め

- ・学校への参加・作品募集については、団体等からのものも含め、**一律チラシ配付はしない。**
⇒ただし、学校の判断で、学校教育の一環として取り組めるようにするため、電子データをグループウェア（キャビネット）で提供可能